

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570102295
法人名	医療法人 仁和会
事業所名	むつみ苑グループホーム 池内の家
所在地	宮崎市池内町前吾田1096番地 (電話) 0985-39-6623
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 3 月 31 日

【情報提供票より】(21年 3月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,360円 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200	円

(4) 利用者の概要(3月 9日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内病院 小村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の北西部で、やや郊外の歴史ある大型団地に隣接し、利便性の良好な場所にホームは立地している。民家を思わせる木造平屋建ての親しみやすい造りで、隣接して関連のグループホームと老人保健施設があり、連携して運営されている。「日本一あたたかい家庭を目指し、地域の中で暮らし続ける…」を理念に、心のもった暖かいケアが実践されている。月に1回は利用者の希望をとり入れ、ドライブや外食を楽しんでいる。利用者は職員の明るい笑顔と優しく思いやりのあるケアに支えられ、全員表情が明るく元気で安心して暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果を運営推進会議に報告すると共に、毎月実施する職員会議で検討し、具体的な改善に向けて取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で評価の意義や目的について話し合い、自己評価の一連の過程を通して理解を深め、サービスの質の向上に活かす取り組みを行っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、包括支援センターや民生委員、家族の代表等が参加して、運営状況の報告や防災訓練等具体的な話し合いを行っている。ただ20年7月より開催が延期されているので、今後は、地域の代表を加えた幅広い人が参加する会議として、2か月に1回以上の開催を期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話で、気軽に何でも話ができる雰囲気づくりに努めている。また、宮崎市の介護相談員を受け入れ運営に反映している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人々や保育園の園児との交流はあるが、自治会が行う行事や地域活動への参加が少ないので、地域自治会への加入を検討し、地域の一員として老人会との交流や地域の行事に積極的に参加して交流を深めてほしい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日本一あたたかい家庭を目指して、地域の中で暮らし続ける…」とする、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝の申し送り時や毎月の職員会議の中で理念について話し合い、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々や近くの保育園児との交流はあるが、自治会が行う行事や地域活動への参加が少ない。	○	地域自治会への加入を検討し、地域の一員として老人会との交流や地域の行事等に積極的に参加して交流を深めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の意義や目的について全員で話し合い、自己評価の一連の過程を通して理解を深めサービスの質の向上に活かしている。また、外部評価の結果については、運営推進会議に報告し具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、包括支援センター、民生委員、家族の代表等が参加して、運営状況の報告や防災訓練等具体的な話し合いを行っている。ただ20年7月より日程調整等の都合で開催が延期されている。		運営推進会議は、外部の人々の目を通して、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるので、地域の代表を加えた幅広い人が参加する会議として、定期的な開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮崎市ケアマネジメント推進事業の研修会に毎回参加し、市の担当者と交流を深めている。また、推進事業の協力員として今年度から2名を参加させ、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、金銭管理は出納帳を作成して定期的に家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話で気軽に何でも話しが出来る雰囲気づくりに努めている。また、宮崎市の介護相談員を受け入れ運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員が働きやすい環境づくりに努めており、異動や離職が少ない。代わる場合は、マンツーマンで指導し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には出来るだけ多くの職員が参加できるように配慮している。また、研修の結果はミーティングで全員に報告し共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、ブロックでの情報交換や、勉強会を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族にホームを見学してもらったり、職員が自宅や施設を訪問する等、徐々に馴染めるように家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に生活しながら、料理やお茶、礼儀作法等多くのことを学び共に支えあい、お互いの信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の行動や表情、会話の中から希望や意向を把握出来るように努めている。また、家族や関係者の情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族と充分話し合い、職員の気づきや意見、アイデアを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、利用者や家族の希望や意向を採り入れて3か月に1回定期的に見直しを行っている。また、状況の変化が見られる場合は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や希望に応じて、通院や外泊、外出等柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本に受診が継続出来るように支援している。母体病院でも気軽に相談や受診が出来る体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始の段階で本人や家族と話し合い、ホームで対応出来なくなった場合について、母体病院への入院や隣接する老人保健施設への入所等、繰り返し話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応がないよう細心の配慮をしている。また、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いを優先し、音楽療法やレクリエーション等その日の体調や希望にそって、自分のペースで楽しく暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、買物から調理、後片付等利用者と一緒にやっている。食事と一緒に同じテーブルを囲んで同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそって、毎日入浴が楽しめるように支援している。また、利用者間に不満がおこらないように、毎日入浴の順番を変える等細かな配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや食事の準備、後片づけ、花壇の手入れ、カルタ等、一人ひとりの得意分野で力を発揮し、日々喜びのある生活ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回、車で花見や公園等にドライブをし、外食を楽しんでいる。天気の良い日には、近隣の散歩や近くの喫茶店に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回定期的に実施し、消防署の協力を得る機会もある。また、自衛消防組織をつくり、毎日職員が災害予防自主点検を行い意識を高めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量は、毎日こまめにチェックしている。法人の栄養士による栄養管理もなされ、バランスの良い食事の内容となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、全体的に広々として明るく、廊下や壁にはドライブに出かけた時の写真が飾られ、食堂のテーブルには利用者が散歩時に持ち帰った花が飾られていた。家庭的な雰囲気があり、居心地よく生活できるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇やソファ、思い出の写真、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫がされている。窓からは花壇の花々が眺められ、落ち着いて生活できるように配慮がされている。		